校長室の窓から　２６年５月

「山 笑 う」　　**校長　村上俊二**

神石の山は、今、広葉樹の薄黄緑の若葉が萌え、その間にツツジのピンク色やフジの紫色が点々と彩りを添える美しい季節を迎えました。正岡子規の句に、「故郷や どちらを見ても 山笑ふ」とあります。木々が一斉に若葉を茂らせる春の山は、霞のなかで笑っているようで、駘蕩として心がなごみます。

この、「笑う山」は暮らしの近くにある山で、今でいう「里山」にあたるものです。朝晩、山を眺めながら、季節の移ろいを実感し、また、森の恩恵を受けながら生きてきた人々の暮らしが偲ばれます。

五月五日は「立夏」で、暦の上では夏を迎えました。神石小学校の前にある八尾城のクヌギ・サクラ・ナラ・カシワなどの葉が緑の色濃さを増し、生き生きとしたエネルギーを感じさせます。

そのような中で静かに落ち着いて学習に励む子どもたちは、本当に幸せだなと感じます。まもなく迎える運動会に向けて、エネルギーをいっぱいに発散させ、練習に励んでいます。どうか、運動会当日はご家族、ご近所お誘い合わせてご来校いただき、激励くださいますようお待ちいたしております。